

切り花経営を始めたい! 初歩からの実践講座 ②



どのような経営を目指すのか?



高冷地花きコンサルツ
代表 おほだいら 大平 たみと 民人

筆者略歴

1965年長野県農業講習所卒業、同年から長野県職員。上伊那普及所にてアルストロメリアの産地化、花き専門技術員、南信農業試験場にて花き係設置にともなう基礎づくり、農事試験原村試験地にて圃場の基盤整備とそれにとまなう試験地運営などに従事。2004年退職後、高冷地花きコンサルツ開業。

…立地条件を
グローバルな視点で捉えよう…



切り花を栽培するにあたり、まず何から考えていけばよいのでしょうか？



気候や土壌、経済立地、国際競争力など。まずは、あなたの土地の立地条件をあらゆる面から分析し、総合的な優位性を見つめるようにします。

1 生産立地の優位性

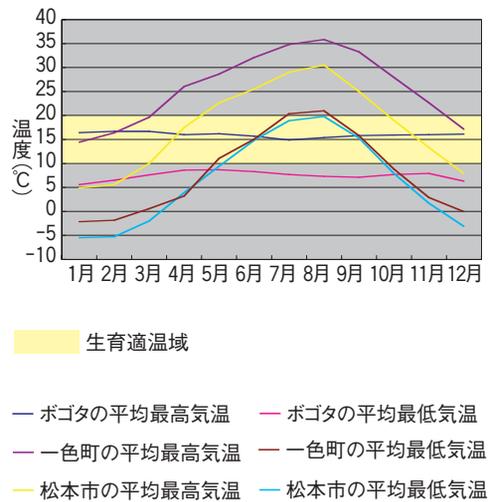
まず、気候や土壌、環境、水利などの条件から検証します。

① 気候条件

カーネーションについて、切り花を日本に輸出しているコロンビアと、国内を代表する産地である暖地の愛知県一色町および高冷地の長野県松本市を比較してみましょう(第1図)。コロンビアでは、生育適温である10〜20℃が周年で得られるのに対し、一色町や松本市では数カ月間しか得ることができません。国内では適温の確保域により、暖地は秋〜春季、高冷地は春〜秋季を主体に切り花が生産されます。しかし、周年で高品質の切り花を供給するという点では、国内の一地域の産地だけで外国と競争するのは無理になります。

品目と温度関係のほか、日照、日射、湿度、土壌水分(降雨)などについても同様に検証します。また、施設栽培では暖房コスト面から、品目の必要最低温度との関係を重要視します。

第1図 カーネーション産地の月別、平均最高・最低気温の比較



↑世界的な花木産地である、オランダのポスコープ地域。

② 土壌条件

例えば、リンドウは酸性土壌を好むので、陽イオン置換容量の大きい火山灰土や重粘土の土地が適しています。また、花木の切り枝産地は、新梢の伸びがよいことが条件になります。世界的産地であるオランダのボスコープ地区は、運河の水位が高いことに加え、保水性の高いピートランドになっています。

産地化には、品目に好適な酸度(pH)などの化学的性質や、水分含有特性などの物理的性質といった面からの検討も重要です。



③その他

環境（地形、通気、公害）、騒音（暖房機）、光（電照）、異臭（薬剤散布）、水利、電気、輸送道路なども検証の対象となります。

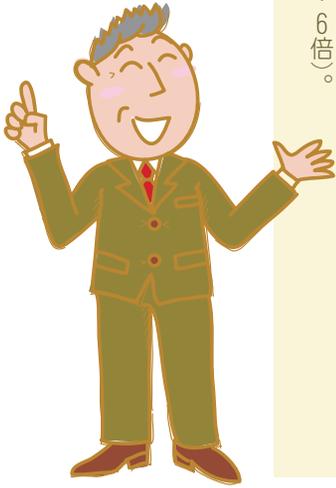
2 経済立地を考えてみましょう

総合的な優位性を確保するには、まずは次の要件を検討する必要があります。

- 生産地から消費地までの輸送ルートおよび配送システム。
- 鮮度維持と輸送コスト面からの、消費地までの距離。
- 生産、流通に必要な資機材の調達。
- 雇用労働力の確保。
- 土地、資金調達などの基盤の現状と整備。

また、輸入切り花との対峙には、次の点を検討し、確立することが必要です。

- 輸入切り花の品質とコストの正確な把握、および産地間連携などの対応。
- 付加価値化：オリジナルな品種利用や成品形態、鮮度を含む流通・販売方法やルートの差別化。
- 経営収益目標を単位面積当たりの収益で確保（事例：オランダのカーネーション切り花収量は1㎡当たり230〜270本で、コロンビアの1・6倍）。



…人材雇用について…

Q 人材を確保するには、何を考慮すべきでしょうか？

A 年間を通じた雇用計画とスキルの高い人材の確保が重要課題。そのためには従業員との信頼関係の構築が大切です。

1 経営における人材確保

雇用は次の視点から行います（経営者関連は経営方法の項を参照のこと）。

- 当初は少人数の雇用が一般的。経営や栽培への理解、経験を持つ人を確保する。
- 計画的雇用：労働力を最も必要とする作業（一般的には切り花出荷作業）の分散化と、処理日量から計画。
- パート雇用の拡大：作業工程や内容を単純化し、活用場を拡大。
- 従業員のスキルアップ。

2 産地化において

先駆者、内部リーダー、コーディネーター間における、信頼関係の構築と連携を重要視します。



従業員との信頼関係が大切なんだね。



…出荷ルート

（効率性・利便性・コストの追求）

Q 都市部まで遠いので、鮮度保持や出荷コストが心配なのですが？

A 鮮度を保持するさまざまな輸送方法があります。ただし、遠隔地の場合は直売など販売チャンネルの複数化も考慮した方がよいでしょう。

連載第1回目に記載した販売チャンネルに基づく、本輸送までの体系例は、第2図（次頁）のようになります。

出荷ルートの設定、確保の要点

- 効率性、利便性を含めた流通の低コスト化。
- 鮮度保持対策：冷房・保冷車利用、パケット・縦箱輸送、エチレンが発生する青果などとの混載回避。
- 環境対策面から見た輸送手段の選択（事例：オランダではトラックからEC域内での貨車輸送試験を開始）。
- 遠隔地輸送が困難な場合は、直売や観光農園化などを考慮。



↑ 共同選花場から縦箱を用い、保冷車で本輸送を行う。

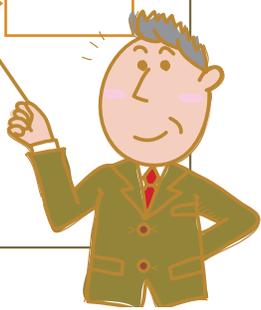
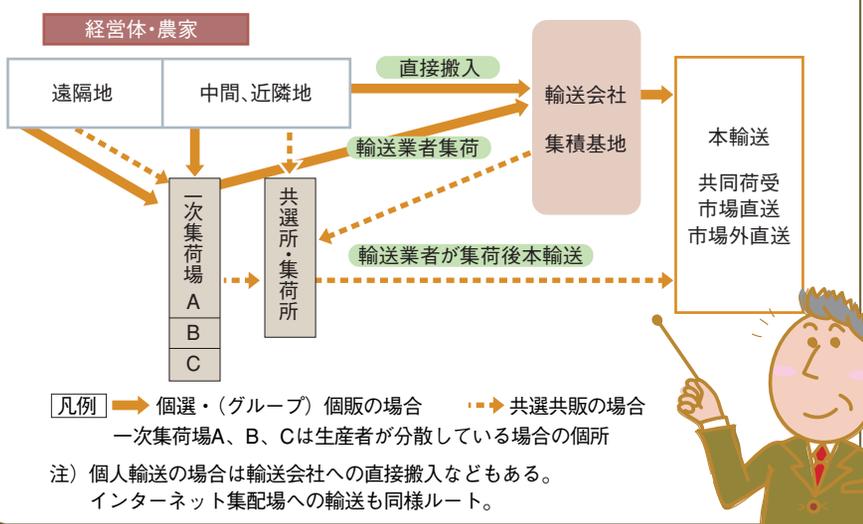
表 オランダ花き市場(VBN)における切り花取扱額上位品目の順位(2005年と1990年の比較)

2005年 順位	品目	1990年 順位
1	バラ	1
2	スプレーギク	2
3	チューリップ	4
4	ユリ	5
5	ガーベラ	7
6	シンビジウム	9
7	フリージア	6
8	輪ギク	*(17)
9	アンズリウム	14
10	アルストロメリア	10
11	アマリリス	18
12	トルコギキョウ	25
13	カラー	51
14	宿根カスミンソウ	8
15	カーネーション	3
16	ヒペリカム	63
17	ヒマワリ	78
18	ハイドランジア	86
19	シャクヤク	41
20	ソリダゴ	40
21	リモニューム	11
22	アイリス	12
23	スイセン	15

備考：1990年に20位以内で2005年に21位以下になった品目はリモニューム、アイリス、アスター、スイセン、グラジオラス、ブヴァルディア、ユウギリソウ、デルフィニウム、ライラック。
 ※(17)はスプレーギク以外の輪ギクを含むその他のキクとしての集計順位。



第2図 出荷組織の本輸送までの産地側出荷ルート事例



- 1 品目選定の手法**
- 地域の先駆者、リーダー、過去の取り組み事例から検証して品目を選定。
 - 行政(JAなど)の振興計画、市場、種苗業者、育種家、利用・消費者側などからの提案品目。
 - 海外先進国(ヨーロッパなど)での伸長・利用品目を調査し、選定(表)。
 - 自生植物、新植物の収集、改良、育種による商品化。

「収益・所得目標と栽培規模」を念頭に、次の手段を駆使し、品目を選定します。

Q …… 経営品目の選定(最良品目の選定)：どの品目を栽培すればよいのか、選ぶポイントは何かですか？

A その地域の過去の事例や将来性、経営適合性を考慮し、主品目を決定します。

Q …… 作型の選定
 ～経営に適合する作型を選ぶ～
 …… どのような作型を選ばよいいのでしょうか？

- 2 ささまざまな視点からも検証が必要で**
- 前述の立地・輸入関連事項に加えて、次の視点からも検証を行います。
- 経営の安定性面から、栽培技術の確立程度と対応能力。
 - 経営への適合性：経営主品目(周年出荷品目など)、補完品目(時期的労力を利用した組み合わせ品目)としての適切性。
 - 市場の流通量、競合産地、将来性。
 - 植物の栽培特性。
 - 致命病虫害の有無と対応策の確立程度(新テックパウリ、リンドウの輪作体系など)。
 - 宿根草類、花木類ほかの、栽培特性上における短所面への対応策。
 - 花芽分化が変動しやすい品目(フリージア、アルストロメリアなど)や、切り花鮮度保持特性への高度技術。
 - 技術習得および、その後のケアを受けられる体制の有無と程度。



A 花の種類や地域特性により異なり、また経営手法によっても違ってきます。メリット、デメリットを知り、品目ごとに対応していきましょう。

1 作型の成立と発展

リモニウムシヌアタの作型で見てみましょう(第3図)。この品目は、低温に遭遇すると花茎を発達させる生態を持っています。そのため、秋から春先までの低温を利用した基本的な作型が成立し、主体を占めていました。基本作型でも、暖地は早出し、高冷地では遅出しのように地域特性を生かす技術が確立され、それが作期の幅となっています。

また、種子冷蔵、種子冷蔵+冷房育苗作型は、低温の必要な時期や量などを解明し、それらの条件を人工的に与えて組み立てた、いわば進化した作型です。さらに、低温処理苗購入作型は、低温処理と苗作りを分業化したものです。ウイルス病や種子系由来の個体差を回避するため、栄養系品種として生産性を高め、その苗を生産者が使用するという、最も進化した作型です。

2 作型の利用方法

リモニウム シヌアタを周年栽培するには、低温処理苗購入作型を主体に基本作型を組み合わせます。出荷時期を限定する場合は、各作型を単独または組み合わせて利用します。

なお、作型の成立は、品目によって、温度以外の生態などに関係するため、品目ごとの対応となります。

Q …経営方法(国際化視点を重視)…
経営にあたり、留意するポイントは、何なのでしょう？

A 目指す経営のポジションを明確にする中で、生産、販売に対する国内外の競争相手の動向を意識した取り組みが必要です。

次代を見据えた場合、次のような意識基盤が大切になります。

1 経営理念

- 環境対応。
- グローバル化対応。
- フロンティアスピリット(常に新しい挑戦で進化)。
- 変幻万化の経営。
- 花への賛歌。

2 経営の形態

- 形態のステップアップを目指す。
- 家族経営→法人化→海外生産

3 経営するうえでの課題

- 消費の拡大。
- 輸入花に対する明確な対応策。
- 強いコスト意識と改善目標。
- 経営発展の将来像および模式(アジアにおけるオランダ化)。
- 観察力、洞察力、先見性の醸成。
- 国内自生植物の国際商品化。

第3図 リモニウム シヌアタの作型(気候立地別範囲)

